岩間寺

岩間寺は、722年に泰澄（682-767年）が創建した寺院です。言い伝えによると、泰澄は慈悲の菩薩である千手観音の真言がこの山に豊富な桂の木々から聞こえてきたことで、この地が神聖な場所であると考えました。境内の裏手にある祠では、樹齢500年以上ともいわれる桂の巨木を祀っています。

岩間寺は観音様を祀っており、この寺院の本尊は、高さ15センチの金銅でできた観音像です。この観音像は、かつては泰澄が地元の桂から彫ったとされる木彫りの観音像の中に安置されていました。この木彫りの観音像は失われ、金銅の観音像は1577年に再建された本堂に安置されています。この古来の仏像は公開されていませんが、その代わりにより大きな観音像を見ることができます。また、岩間寺では、観音様は加齢による老いを防ぐと信じられており、頭を鋭く保つための特別な儀式が行われています。

本堂脇の庭園は、俳人・松尾芭蕉（1644-1694年）が岩間寺を訪れた後に詠んだ、ある有名な俳句のきっかけを与えたと言われています。